

ごあいさつ



日本WHO協会理事
株式会社プロアシスト 代表取締役社長
阪田 敦視 (さかた あつし)

1948年に発効されたWHO憲章の前文には「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。(日本WHO協会訳)」と書かれていて、肉体的、精神的な面が元気であっても、社会と健全なつながりを持てなければ健康ではないと定義しています。

以前、不注意で転倒して右腕を骨折したことがあり、術後は利き腕である右腕を思い通りに動かすことができなくなりました。一時的とはいえ体が不自由になったことによる肉体的、精神的負担は大きかったです。不自由ではない左腕を主に使って生活していると右利きであれば当たり前で気にならなかったことにも不便さを感じました。ハサミ、カメラ、自動改札、自動販売機等々、左利きの方にとっては不便さを感じるモノが多く、身体が不自由であるかどうか、利き手がどちらであるかに関係なく誰にとっても不便さを感じさせないモノやしくみばかりではないことを実感する良い機会となりました。

昨年、発行された新しい日本銀行券にも額面数字の大型化や券種毎に識別マーク、ホログラム・すき入れの形や配置が異なるといったユニバーサルデザインが採用されました。ユニバーサルデザインとは、全ての人が利用しやすいことを目指

した考え方であり、7つの原則が示されています。

- 原則1：誰もが利用でき容易に入手できる公平さがあること
- 原則2：自由度が高く利用者の能力に合わせて柔軟に利用できること
- 原則3：シンプルであり特別な理解や習熟を必要とせず簡単に使えること
- 原則4：必要な情報がわかりやすいこと
- 原則5：フェイルセーフで設計され安全に使えること
- 原則6：身体への負担が少なく楽に使えること
- 原則7：使いやすい広さや大きさを確保すること

弊社はシステムの設計開発を社業とし「健全なデジタル社会の実現に貢献する」というパーパスを掲げています。人と人、人と社会が健全に繋がるシステムとはどのようなものであるかを考えるヒントがこれらの原則にあると考えています。デジタル社会においては正確な情報を誰にでもわかりやすく伝えることが重要になっています。皆様との双方向でのコミュニケーションを大切にしながら、これからのデジタル社会と健康の在り方を真摯に考え、誰もが健全なつながりを持てる社会の実現に邁進する所存です。

2025年1月